



発行日：平成26年1月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

第5回海の地域部会を開催しました！

1月14日に第5回海の地域部会を開催しました。平成25年度の活動成果を共有し、来年度の活動計画について、話し合いを行いました。



日時：H26年1月14日(火) 14:00～16:30
活動場所：西尾市役所 5F 52 会議室
参加者：18名(事務局含む)

主な会議内容

1：今年度の海部会の活動成果報告を共有しました



【主な内容】

活動報告のニュースレターは、分かりやすくて良い。
活動成果について、2つ以上のテーマに重複するような活動は、両方の成果として挙げておいた方が良い。
所属団体のメンバーであれば、海部会の活動に参加できるようになると良い(現在も可能であるが、意識として)。

話し合い中のご意見は裏面に記載しています。

2：来年度の活動計画について話し合いました



【主な内容】

ごみ・流木問題について、川や山と連携して、調査・報告会をやる方向が良い。また、奈佐の浜プロジェクト等の他の活動とも交流できると良い。
豊かな海の生物調査について、鳥の面から海を勉強できると良い。また、海底の酸素と生き物の関係が勉強できると良い。
人と海との絆再生について、矢水協で行っている山の子どもの海の生き物観察会との連携や漁業関係者との交流ができると良い。
干潟・ヨシ原再生について、干潟造成実験に向けた検討を行っていく。

< 来年度の活動計画(案) > : 山・川・海で連携した活動

【テーマ】ごみ・流木問題

山・川と連携したごみ・流木調査の実施
海底ごみ調査の実施
ごみ・流木調査報告等による情報共有

【テーマ】豊かな海の生物調査

鳥類から見る海の勉強会の開催
海底の生きもの調査勉強会の開催

【テーマ】海と人との絆再生

子どもの干潟体験の実施
漁業関係者との交流

【テーマ】干潟・ヨシ原再生

干潟造成実験に向けた検討

話し合い中のご意見は裏面に記載しています。



お問合せ

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107 / FAX 0532(48)8100

* 矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijnet.or.jp)までお送りください。



話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

今年度の海部会の活動成果報告について

- ・ ニュースレターは分かりやすくして良い。(青木)
- ・ 活動成果について、11回のWG(東幡豆、西浦干潟生き物調査)は、干潟・ヨシ原再生のテーマにも関連しているので、重複して挙げてはどうか。運営方針の×評価も、報告する立場としては×が少ない方が良い。(青木)
 - ▶ 3ヶ年の目標であるので、1年目でこの評価は良い方である。(土屋)
- ・ 以前も指摘したが、ニュースレターVol.4の生き物調査結果の数値が間違っている。こういう数値はきちんとしてほしい。(井上)
- ・ 海部会でいろんな活動を行っているが、自分の団体の活動が重なると参加できないので、海部会のメンバーでなくても、所属団体のメンバーであれば参加できるようになると良い。(大矢)

来年度の活動計画について

ごみ・流木問題

- ・ 海部会だけでやってたのでは意味がないので、川や山と連携して、調査・報告会をやる方向が良い。(青木)
- ・ 生活ごみには、各自治体で監視する必要がある。(長谷)
 - ▶ 県の方でも、県内の河川でどんなごみが出ているのかというのを今年と来年で調査している。(石上)
- ・ きちんと上流で管理がなされていれば廃棄物は減ると思うが、市町で処理できないごみを海で埋め立てている現状である。一度、流域圏の市町で発生するごみの量と処分量の数値を見て、海部会としてどうしていくかを考えると良い。(鈴木)
 - ▶ 各市町村からのデータは提供できる。ただ、どれだけ漏れてポイ捨てとかされたかは把握しきれていない。把握しきれていないものは、川での調査をやるようとしているが、なかなか全体量の把握は難しい。(國立)
- ・ 漁船に乗せてもらったことがあるが、カニよりもごみの方が多かった。そういうものを伝えることが大事だと思う。(大矢)
 - ▶ 前回、鈴木さんから海底ごみ調査の話が出た。機会がつかれると良い。(青木)
- ・ 奈佐の浜プロジェクトについて、今年6月の調査は愛知県の亀の子隊の活動現場でやるということが決まっている。できればぜひ皆さんとの交流の場を持っていただけてほしい。(井上)

豊かな海の生物調査

- ・ 水質調査について、調査地点にどういう生物がいるのか分かると良い。(天野)
 - ▶ 東京湾や伊勢・三河湾で、海の底の酸素とそこにいる生き物との対比を図化したような資料は既にあるので、それで勉強しても良い。昨年、水産試験場で三河湾全域でメッシュで水質と生物を整理した調査結果がある。(鈴木)
- ・ 海部会でパネルの作成し、貸し出しのような形で、勉強要素も含めたものができることより効果的な取組みになると思う。(谷口)
- ・ 高橋さんがいないが、鳥の面から海を見るというのも良いのではないかと。(國立)
- ・ 生物観察会は自然干潟でやるが、常に人工干潟のデータもとって対比すると、土砂の問題にもつながると思う。(青木)
- ・ 生き物調査の継続については、やるならやるの体制が必要である。価値はあると思うが、何年もやれるかどうか。(鈴木)
 - ▶ 試験場のデータを勉強するほうが現実的である。(井上)

海と人との絆再生

- ・ 去年、漁師さんのお話を聞くセミナーを行ったが、お盆しか空いていないと言われ、人が集まらなかった。(大矢)
- ・ うちの方では、学校の生徒(小・中)と海の生き物の観察会を行っている。(鈴木)
 - ▶ 長野県の根羽小学校、平屋小学校、岐阜県の上矢作小学校をこちらから毎年潮干狩りに招待している。(天野)
- ・ 山の子が海にアクセスする機会は、数年に1回になっている。そういうことを海に取り込んでいくことも大切である。(鈴木)
 - ▶ 絆再生として、山の子を対象に観察会を行うのもよい。(青木)

干潟・ヨシ原再生

- ・ ダムの砂を干潟に持ってこれるようにするために、どうしたらいいかを検討するのが、私の希望である。(青木)
- ・ 三河湾の再生のためには600万m³の砂が必要である。兵庫県の加古川では、海から50kmぐらい離れたところのダムの堆砂をダンプで運んで、浅場造成している。県の河川事業と県の水産振興事業とがタイアップしてやっている。(鈴木)
- ・ 西浦人工干潟について、矢作川の浚渫土トラック1杯や2杯では全然効果はないと思う。(河原)
 - ▶ 実験の規模によると思うが、10tダンプ3杯か4杯で実験フィールドはでき、やってみる価値はある。(鈴木)
- ・ 建設発生土のシステムがあり、公共工事でやっている土木工事の土砂の運搬状況を見ることが出来る。(西原)
- ・ 仮に干潟でダムの砂を受け入れるとするとアクセスが重要になってくる。さしさわりのない範囲で干潟の選定などもやっていった方がよい。東幡豆だと組合長さんも積極的だし、アクセスも悪くない。相談してはどうか。(鈴木)
 - ▶ 干潟の現地調査と干潟造成実験に向けた検討という方向でどうか。(青木)

ふりかえり

会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。



よかったと思うこと: 様々な意見が出て、多角的に議論ができた。/いろいろな立場の人の話が聞けて、参考になった。/各テーマに沿って、細かく議論できたことは今までにない展開だった。/実際に実現しそうな話がまとまって、決定化の方向に向かってきた。

よくなかったと思うこと: 矢水協の子供の観察会にのっかること。(子供の観察会は、安全確保のために事前のチームワークが必要。中途半端な協力は反対!)/各テーマの最終目標を見て議論ができたなら良かった。/話をしただけのところもあった。

来年度、海部会で取り組みたいこと: 海底ゴミ。/海ごみのPR。/各種調査やPR(上下流連携により、海の現状、問題点を共有)/生き物調査。/ダム砂について。矢作川河道の砂を見てもよいのではないかと。/ダム直上の湖底の腐泥状況を知りたい。

活動に向けて、自分ができること: 流域圏と県とのタイアップ。/廃棄物に関する情報提供。/沿岸漂着物(ごみ)の発生状況、PR。/三河湾PJとも連携させていただきたい。/技術的な情報発信(特にケイ素の収支・重要性)。/資料の誤字脱字等のチェック。

今後のスケジュール(予定)



第3回全体会議を2月28日(金)に開催します。

矢作川流域圏懇談会全体の平成25年度のとりくみの総括と今後の方針(各地域部会との連携方針等含む)について意見調整します。

